

平成19年度 錦ヶ丘こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	錦ヶ丘こども文化センターの管理運営に関すること 南生田小学校・生田小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	こども会議、保護者会、運営協議会、利用団体懇談会で、利用者ニーズの把握を行なった。こども文化センター、わくわくプラザに意見箱を設置したことで、幅広い意見の把握ができるようになった。南生田わくわくプラザの野外活動の充実を図った。こども文化センターの行事に参加したいとの意見を参考に、アスクル事業の宣伝を行ったことで、学校帰りにこども文化センターを利用することもが昨年度より20人増になった。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	こども文化センターの集会室天井、引き戸、入口の扉、湯沸室の流し、トイレの扉、壁のタイルの修繕、カウンター板の張替え、図書室のカーペット張替え、壁のペンキ塗りなどを実施した。また、多くの破損箇所を修繕した。利用者（地域の方々）より、よくなったとの声が多く寄せられている。障害児対応については、研修での勉強、学校の先生との情報共有、また、保護者とのミーティングなどにより、より深く理解することができた。多摩区のDIO事業を利用し、図書室のカーペットの張替え、壁の塗り替えを行い、乳幼児優先の部屋を整備した。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。こども文化センターでは、多摩区と協力し、DIO事業として施設の補修に努めていたことは評価できる。また、1つのクラブ活動を実施し、事業の充実に努めていた。

事業の実施に関する こと	平成19年度は、乳幼児の子育て支援の拡大に力を入れた。ジャンボシャボン玉づくりを保健所と合同で行い、36組73人の親子の参加があった。ビニールプールでの水遊びは、六日間で、延べ75組153人の参加があった。多摩市民館主催の「たまたま子育てまつり」に、多摩区内のこども文化センター7館で参加し、約300人の来場者があった。	運営協議会等との連携により地域のニーズに合った行事を実施したことは評価できる。今後は、把握したニーズを具体的な事業の実施に繋げるルール作りなど工夫をすること。今後も、ボランティアの活用に努めること。
個人情報取扱に関する こと	こ文：入館状況調査票、臨時職員採用に関する書類、わくわくプラザ：出席簿、申込書など鍵のかかるロッカーに保管している。電子情報はパスワード管理。	個人情報の取扱については、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する こと	月1回、こども文化センター、わくわくプラザとも、施設内点検を実施している。学校の遊具についても、危険を感じるものについては、学校へ報告するなど、学校との連携を図っている。こども文化センターとわくわくプラザでは、不審者防止研修、年2回の定期的避難訓練を行っている。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、南生田小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化 センター	延べ利用者数 13,114人 延べ団体利用数 3,760団体 (主な行事等) けん玉広場 秋だ！祭りだ！ハロウィンだ！ (特色のある行事) 和太鼓	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 南生田小学校わくわくプラザ 登録者数 529人 延べ利用者数 23,051人 (主な行事等) ジュニアピクス 手作り昼食(カレー) (特色のある行事) 芋掘り 2 生田小学校わくわくプラザ 登録者数 264人 延べ利用者数 9,507人 (主な行事等) おりがみの日 わくわくまつり (特色のある行事) 耐震車体験	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																																	
(3) 収支状況																																			
① 収支状況	<p style="text-align: right;">(単位：円)</p> <table> <tr> <td>収入</td> <td>指定管理料</td> <td>60,441,180</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>人件費</td> <td>46,734,951</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理費</td> <td>3,001,316</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務経費</td> <td>1,937,847</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td>1,436,042</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td>909,090</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td>40,492</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td>636,363</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第2回精算に伴う返納金</td> <td>5,000,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>59,696,101</td> </tr> <tr> <td></td> <td>差引</td> <td>745,079</td> </tr> </table>	収入	指定管理料	60,441,180	支出	人件費	46,734,951		管理費	3,001,316		事務経費	1,937,847		その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		第2回精算に伴う返納金	5,000,000		合計	59,696,101		差引	745,079	<p>事業実施後指定管理料の残額を戻入しており指定管理料の範囲内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。</p>
収入	指定管理料	60,441,180																																	
支出	人件費	46,734,951																																	
	管理費	3,001,316																																	
	事務経費	1,937,847																																	
	その他経費	1,436,042																																	
	青少年事業資産取得支出	909,090																																	
	減価償却引当資産取得支出	40,492																																	
	第1回精算に伴う返納金	636,363																																	
	第2回精算に伴う返納金	5,000,000																																	
	合計	59,696,101																																	
	差引	745,079																																	

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。